

## 2014年グローバルNCAP年次会合等に関する出張報告について

期間：10月28日～30日

場所：中国・天津（Ritz Carlton Hotel、CATARC本部）

ホスト：CATARC（China NCAP）

出席会議：

- ①Annual Advisory Council（グローバルNCAP）
- ②Technical WG/Communication WG（グローバルNCAP）
- ③国連交通安全活動（UN Decade of Action Summit）
- ④NCAP ラウンドテーブル会議（グローバルNCAP年次会合）

JNCAP出席者：

別紙のとおり

目的：

・国連の積極的な動きもあり、自動車アセスメントが世界的に促進される状況の中、他の国、地域のNCAPの活動について情報を収集・分析することで日本におけるNCAP活動の更なる発展を図ることは、自動車ユーザーによりよい情報を提供する上で重要である。

また、日本のNCAPの試験法・評価法を周知し、国際化を図ることは、国際的な交通安全に資するのみならず、適正な評価のもと日本の先進技術を搭載した車両を国際展開していく上で有益なものとなる。

このため、グローバルNCAP年次会合及びWGに年2回参加することとしており、今回、中国で開催されたグローバルNCAP年次会合他に出席した。

なお、主な会議とその位置付けは以下の通り

- ① Annual Advisory Council（グローバルNCAP）：．．．．．（GNCAPの活動報告）
- ② Technical WG/Communication WG（グローバルNCAP）  
．．．．．（NCAPの情報交換と国際的な課題整理）
- ③ 国連交通安全活動（UN Decade of Action Summit）  
．．．．．（国連の交通安全活動に関する発表）
- ④ NCAP ラウンドテーブル会議（グローバルNCAP年次会合）  
．．．．．（各NCAPの活動報告と意見交換）

概要：

28日

①Annual Advisory Council（グローバルNCAP）：

- ・GNCAPのAssociateメンバー（GNCAP、ANCAP、ASEAN NCAP他）に合わせてその他のNCAP関係者がオブザーバーとして参加。（JNCAPはオブザーバーとして参加）
- ・GNCAPの2013年年次報告書（Annual Report）に関する報告がされた。（GNCAPの活動について、今後、インドNCAPを行うことをインドのIRTE（Institute of Road Traffic Education）と調整段階との報告があった。）
- ・次回は、2015年11月に、ブラジルで開催される道路交通安全の第2回大臣級会合に合わせて同地で年次会合を開催する予定。なお、次回会合ではGNCAPの2020年までのロードマップを作成予定、
- ・GNCAPの活動については、各方面の財政的な支援の他、各NCAP機関の技術面を中心とした支援が必要となることから、先進的な取組をしている日本に対して引き続き協力依頼があった。

29日

②Technical WG/Communication WG (グローバルNCAP)

→日本から、様々な方面から要望のあったJNCAPの英文の試験法・評価法について提供。

→日本から、予防安全性能アセスメントに関する最新の取組状況を説明して、英文の補足説明資料と合わせて予防安全性能アセスメントパンフレット等を提供。

- ・グローバルに流通する自動車（ホンダジャズ、フォードフィエスタなど）に関して、各 NCAP のデータを集め比較する手法を念頭に、将来のグローバルプラットフォーム（統一的な評価）の構築可能性について意見交換が行われた。（データ収集作業については、各 NCAP の協力を得ながら今後実施する予定。）
- ・NCAP のロゴマーク（5スタ-など）の使用に関するミスユース等の問題について意見交換が行われ、ロゴマーク等のブランド使用に関するガイドライン案が提案された。（基本、各地域においては各地域の NCAP ロゴを使用し、他地域のロゴのミスユース等を発見すれば、NCAP の信頼性確保の観点から、GNCAP へ報告して情報を共有するなど）

③国連交通安全活動 (UN Decade of Action Summit)

- ・国連、GNCAP、FIA、WHO 等の代表から国連の交通安全活動に関する取組等についてスピーチがされ、交通安全に寄与した会社等に対して国連から表彰が行われた。

30日

④NCAPラウンドテーブル会議 (グローバルNCAP年次会合)

- ・自動車業界関係者が多く参加するオープンイベントとして開催され、各 NCAP 機関より、最新の活動状況について報告がされた。

→日本から、JNCAPに関して、これまでの取組の経緯、最新のアセスメント結果、予防安全アセスメントへの最新取組状況と今後についてプレゼン。

- ・各NCAP機関等より、より具体的な技術的な報告がされた。（例えば米国IIHSからはスモールオーバーラップ前突試験の効果、中国CATRACからは後席女性ダミーによる評価の必要性、自動車メーカーからは側面衝突用におけるWorldSIDダミーの必要性など。これらは今後、日本における検討の参考とする。）

(参考：会議等の様子)



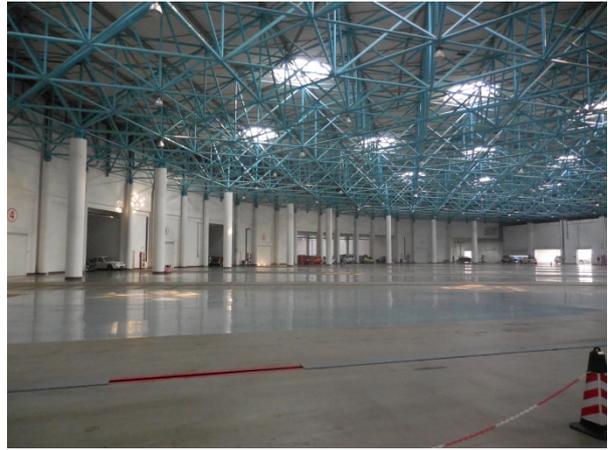
(Annual Advisory Council)



(Technical WG/Communication WG)



(中国 CATARC 本部)



(中国 CATARC 衝突試験施設)



(側面衝突試験の実施)



(英国ケント公による試験視察)



(UN Decade of Action Summit)



(グローバル NCAP 年次会合)

**別紙**

- (1) グローバル NCAP
    - Mr. Max Mosley (Chairman)
    - Mr. David Ward (Secretary General)
  - (2) 米国
    - ① NHTSA
      - Ms. Jenny Dang (Chief of NCAP division)
    - ② IIHS
      - Mr. David Zubly (Senior vice president)
  - (3) 欧州 (Euro NCAP)
    - Ms. Marie Brasseur (Communications Manager)
    - Mr. Ronald Vroman (蘭 Consumentenbond Automotive Expert)
  - (4) オーストラリアン (ANCAP)
    - Mr. Lauchlan McIntosh (Chairman)
    - Mr. Nicholas Clarke (Chief Executive Officer)
    - Mr. Michael Paine (Technical Manager)
    - Ms. Rhianne Robson (Communications Manager)
  - (5) アセアン (MIROS)
    - Prof Dr Shaw Voon Wong (Director General)
    - Mr. Khairil Anwar (Secretary General)
  - (6) ラテン
    - Ms. Carolina Pereira (Communications Manager)
  - (7) 韓国 (KNCAP : TS)
    - Ph.D Kang Byung Do (Head of Advanced Vehicle Safety Research office)
    - Mr. Jin Seop Park (Researcher of Advanced Vehicle Safety Research office)
    - Ph.D Younghun Youn (Professor of Korea University)
  - (8) 中国 (CNCAP : CATARC)
    - Mr. Feng Yi (Director)
    - Mr. Li Wei (Director of CNCAP management Center)
    - Mr. Guo Miao (Vice Director of Department of General affairs)
  - (9) インド (IRTE)
    - Dr. Rohi Baluja (President of IRTE)
  - (10) 日本
    - 谷口正信 (国土交通省)
    - 猪股博之、山下菜穂子 (自動車事故対策機構)
    - 桜井 実 (日本自動車研究所)
2. その他の機関
- (1) 国際連合 (United Nations)
    - HRH Prince Michael of Kent
  - (2) 世界保健機構 (WHO)
    - Dr. He Jing lin (WHO China office)
  - (3) 国際自動車連盟 (FIA)
    - Ms. Rita Cuypers (FIA 基金 Director of Partnership)